



ハーモニー

さぼちが
情報紙

第 35 号 発行日:2021 年 10 月 7 日 発行:認定 NPO 法人 NPO サポートちがさき 発行責任者:益永 律子
〒253-0041 茅ヶ崎市茅ヶ崎 3-2-7 LC61 TEL:080-6255-7546 E メール:sapochiga70@gmail.com

「報告」 ～ 令和 3(2021)年度 第 2 回 全体会を終えて～ 「さぼちが創立 20 周年記念事業について」

事務局 永島 雅美

9 月 4 日 (土) 15 時～16 時 30 分、茅ヶ崎地区コミュニティセンター 2 階会議室において、Zoom 方式を併用し、第 2 回全体会が開催され、対面で 9 人、Zoom で 6 人の計 15 人の会員が参加しました。

テーマは第 1 回全体会に引き続き、さぼちが創立 20 周年記念事業プロジェクトについて、(1)さぼちが創立 20 周年記念事業、(2)さぼちが創立 20 周年記念誌、(3)さぼちがアーカイブ紹介、(4)こどもファンド(仮称)準備会の四つのテーマについての説明と意見交換が行われました。

記念事業の基本方針、目的、体制(案)、概要が説明され、事業候補として、①さぼちがアーカイブの整備(収集・整理・保存)、②さぼちが創立 20 周年記念誌「さぼちが 20 年の歩みとこれから(仮称)」発行、③さぼちがの将来像の策定、④社会貢献活動



説明後の意見交換の様子
(茅ヶ崎地区コミュニティセンター会場)

として「こどもファンド」の準備に絞られたこと、さらに、イベント・セレモニー的なことはコロナの感染状況などを注視しながら実施の有無について今後検討する旨などが説明されました。参加者から、アーカイブについては「使う人の立場でつくること」「残すべき記録を厳選すること」、さぼちがの将来像の策定については「社会の動きと共に考えること」、記念事業全体については「概略スケジュールの提示が必要であること」などの意見がありました。

また、最後に説明されたこどもファンドの準備に関しては、益永代表理事から「なぜ、さぼちががこどもファンドを立ち上げるのかの補足説明があり、参加者からは「高校までまちづくりの活動してきた若者を“卒業”させない、まちづくりとの何らかの関わり合いを継続できる仕組み—こどもファンドを運営するうえで、大学生など若い世代にお手伝いしてもらうなどの交流が必要」など、貴重な意見が多数でした。

さぼちが創立 20 周年記念事業の準備や実施を進める中で、さぼちが設立当時のメンバーをはじめ、今までさぼちがに関わってこられた新旧の会員の皆さんが協働して、さらに良い関係が育ちそうな予兆が感じられた全体会でした。今後も皆さまのご協力をお願い申し上げます。

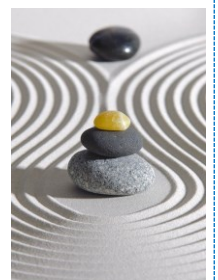
「さぼちが情報紙『ハーモニー』の由来について」

森 早苗

2012 年 4 月に創刊されました『ハーモニー』。当時は、市川悠紀子さん、小林孝男さん、そして私の 3 人が編集を担当させていただいていました。編集から「エコー」への寄稿の依頼をいただいた際、たまたま『ハーモニー』の紙名の由来のお話になりました。そこで、私の記憶の範囲ですがご紹介させていただ

くことになりました。

「会員の皆さんの気持ちを調和しこころひとつになるために役立つ情報紙になれば良いとの期待を込めて『ハーモニー』という名を提案させていただきました。」



2021年7月9日(金)15時～16時30分、講師に茅ヶ崎市経済部吉川部長、農業水産課スタッフをお招きし、ちがさき市民活動サポートセンターにおいて、Zoom方式も併用し、地域コミュニティ勉強会「茅ヶ崎の農業の現状と課題」を開催しました。

まず、市経済部農業水産課課長補佐齋藤様から、「市民まなび講座」資料に基づき、茅ヶ崎市の耕地面積、耕作放棄地面積、農業就業人口、営農家数等の説明、次に、同課江積様から、新規就農希望者への支援として「湘南広域都市行政協議会都市農業部会活動」、「藤沢市・茅ヶ崎市・寒川町による地域就農支援策」に

関する説明等がありました。

その後、参加者から

1.「農業」の意義・



「農」に関する期待、2.茅ヶ崎市における「農業」の課題、3.今後の農業に期待する動きなど様々な感想・意見交換があり、参加者にとり茅ヶ崎市の農業における認識の共有化を図ることができ、極めて有意義な勉強会となりました。ありがとうございました。以下に参加者からの感想の一部をご紹介します。

<参加者からの感想（一部）>

スタートのクイズで茅ヶ崎の農業の実態をイメージできました。市内の販売農家が自給的農家よりわずかに多いくらいの割合であることが意外でした。また、予想通り、専業農家でやっていけるのはわずかで、不動産収入があることで農業が維持されている厳しい現実を知りました。

今後、農業を守る、農地として維持することが重要で、後継者、担い手の確保、耕作放棄地にさせない方策の必要性がよくわかりました。身近な農地を減らさないように小学校区にある生産緑地などをマップに落とし込み「見える化」すると農地確保の切実感が増すと思います。

新規就農者を呼び込むことも中間支援の役割ではないかとあらためて思いました。 (益永)

勉強会では、「農」に関する様々な意見がでました。本件は、官民がそれぞれの立場を發揮して想いを実現するために多角的な角度からのアプローチが必要である事を再認識する事が出来、大変有意義な勉強会になりました。

本日の主催団体代表の挨拶にもありましたが「食べる事は生きる事であり、人生の幸せの原点」であり、「農」の問題は、貴重なテーマであると感じました。 (杉村)

講師の方から「我々の仕事は農業を守ることです。そこから様々な課題への道が拓けると思う」という話がありました。将来を担うこどもたちへの宝のような社会資源が都市農業という形で残ることが大切だと再認識しました。「都市農業のメリットをどう活かすか」を一緒に考えていきたいと思っています。

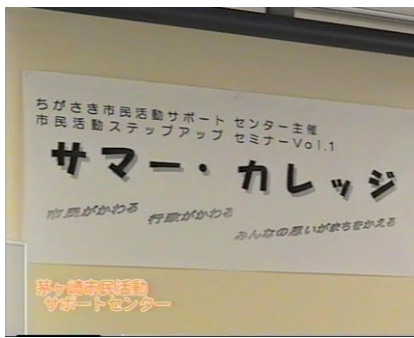
茅ヶ崎のもう一つの魅力は「海」です。次の勉強会では茅ヶ崎の海をテーマとする案があります。コロナ禍収束が見え始める時期(期待)秋に計画したいと思います。 (久保田)



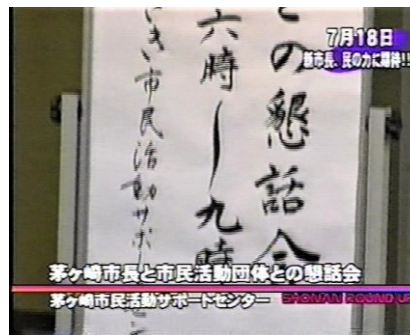
先生役の若い職員さんが導入部分として、この茅ヶ崎・湘南地区の食・農業に関する問題を出して、興味を抱かせるなど、参加者を解きほぐしてくれ、その後順次、茅ヶ崎の農業事情を分かりやすく説明がありました。内容は、矢張り、後継者問題・市街地化・緑地の保全等々、日々厳しさを増す話を中心にならざるを得ませんでした。質問時間となり、各自が茅ヶ崎市の地層の特質と農業、緑地保全の要望、農業体験、環境問題等々の発言を聞いていますと、(市役所で業務として対応されているであろう)農家サイドの食料生産・供給や農地所有の継承などと、市民・住民の要望との橋渡しが大変だろうと勝手な想像をしました。矢張り、地産地消や無農薬野菜など食自体は、農家・農業に近い視線で考えることが必要なのかなとも感じました。農地・農業は、今や必然的ともいえるほどに、環境や温暖化対策にも関わり、一分野のレベルを超越していることを増々考えさせられました。 (岡島)

《創立 20 周年記念》

写真で綴る、あの日の「さぼちが」「サポセン」



2002 年 7 月 27 日(土)『市民活動ステップアップ セミナー Vol.1 サマー・カレッジ』をちがさき市民活動サポートセンターにおいて開催。かながわ県民活動サポートセンター所長の引地孝一さんをお招きして「市民活動とまちづくりについて」の講演が行われ、60 人ほどの参加者たちは講演を聞いて意見交換や全体をとおして市民活動に対するそれぞれの想いを述べていました。



2003 年 7 月 18 日(金)『服部信明新市長と市民活動団体との懇話会』がちがさき市民活動サポートセンターで開かれ、市内の 57 の活動団体などから 160 人が出席しました。それぞれの団体が 1 分間ずつリレーでスピーチをし分野ごとに市長がコメントを挟みながら行われました。市長は就任時の基本政策の中で「市民の力、民の力を活かしてまちづくりを進める市民と行政の共働き」を宣言。懇話会はこの宣言を受けて企画されたもので、市民の関心が非常に高く、60 人の募集におよそ 100 通の応募がありました。この会では、市長を前にそれぞれの代表が短い時間のスピーチで想いを伝えようと、和やかな中にも熱気溢れる交流は 3 時間にも及んだとのことでした。それぞれの分野にコメントを寄せる市長。民の声を聞いた新市長がこの懇話会の成果をこれからの政策にどう反映して行くか、その舵取りに注目が集まっていたとのことでした。

今夏、内野さんがオリンピック・パラリンピックのお仕事をされていたという情報を得て、同氏がオリパラを通じて「なにを感じられたのか」を是非お聞きしたい！ということで寄稿していただきました。

新型コロナパンデミック緊急事態宣言下の中、Tokyo2020 オリパラは1年遅れ無観客で開催されました。1963年生れの私としては、人生ワンチャンス！ご縁あり、会場の技術オペレーション無線担当として参加することができました。ミッションは、外国製の無線機器など違法な電波利用を監視し、無線トラブルを未然に解決すること。国際大会なので、海外からの無線機器も多数あり、トラブル有りがちなのです。生放送なので重責です。

さて、私の担当した3会場での競技では、数多くのドラマがありました。有明体操競技場～絶対金のできすぎ君内村航平選手よもやの鉄棒落下！からの後輩橋本大輝選手の金。会場巡回中の偶然？計画的？遭遇、美しい新体操選手たちの練習リハーサルは激レアでした。有明アーバンスポーツパーク～最年少記録13歳西谷柊選手のスケボー金メダル！有明はスケボーの聖地になることでしょう。

パラでは、お台場ガンダムを眺める青海アーバンスポーツパーク。アンビリーバブル！

ブラインドサッカー。

アイマスクをしてサッカー？

まるでジェダイのよう。

音だけが頼りでプレイ中は

沈黙厳守。アイマスクを

してドリブル～対角への

パス通り～フェイントし、

キーパーの股ぬきシュー

トでゴール！信じられない

神業プレイの連続です！



ブラインドサッカー会場で見つけたレアな？アイマスクを装着してサッカーしている、ソメイティ (So Mighty、とても強いの意味) 内野撮影

基本、競技観戦は禁止なのですが、この決勝戦だけは、大会スタッフも動員され、雨の中、選手達のプレイに熱い声援と拍手を送りました。最後の最後に、感動のご褒美でした。3つの会場で共通して感じたのは、本当なら数千人が入るはずだった立派な観客スタンド。無観客で、実に「もったいない」。Google 翻訳でも「Mottainai」ですが、米国人スタッフには、残念ながら通じませんでした(笑)

さて、非常時の平和の祭典、開催の是非、コロナリスク、もったいない、商売あて外れ、がっかり、など多々あるでしょう。が、あらゆるハプニング困難苦難を乗り越え、多くの出会いや感動ドラマがありました。元気パワーをいただきました、皆がんばりました。感謝ありがとう！目標を持って勇気を出しチャレンジし努力し鍛えサポートを得れば、そして協力すれば、私たち誰もが「やればできる！」こと、改めて身近で体感することができました。さあ、新たなスタート、それぞれのスイッチオン！かな。



ブラインドサッカー会場、青海アーバンスポーツパーク。普段、立ち入り禁止の競技場 FOP (Field of PLAY) での、大会スタッフの記念撮影。さて私はどこでしょう？(笑)

◀予定▶

2021 年度後半の自主事業について

新型コロナ感染収束がなかなか見通せないなか、オンライン方式や小規模での実施などの工夫をしながら、以下の自主事業を計画しています。皆さん、ぜひご参加ください。

- (1) 食から未来へ勉強会 座学を 2021 年内に開催、「春の七草・薬草を学ぶ」を 2022 年初春に開催
- (2) 地域コミュニティ勉強会 「茅ヶ崎の海」をテーマに第 2 回を開催
- (3) 企業 x NPO マッチング 2015 年度までのヒアリング実績企業をベースに年度内にヒアリングを実施

日頃顔を合わせる機会が少ない正会員・賛助会員の皆さま方の交流を図るためのコーナーです。

お訊ねした事項 ※回答を控えたい質問にはお答えいただけなくて良いことにしています。

1. ご出身 2. 入会時期 3. 入会の動機・契機 4. 趣味・特技 5. 4.で最も熱中している趣味・特技について ・何年くらいなさっていますか？ ・どんなところが楽しいでしょう？ ・自慢されたいこと ・目標・今後のご予定 6. 好きな季節 ・その理由は？ 7. あなたにとって大切な「物」 8. どちらかと言えば、好きなのは？「デジタル・アナログ」「自然・人工的」 9. 好きな食べ物 10. 好きな飲み物（お酒以外） 11. 好きなお酒 12. 好きな音楽 13. 座右の銘／好きな言葉 14. 尊敬する人物 15. ストレス解消法 16. その他ご自身のことで、ご紹介されたいこと

小関 禎一さん

正会員

サポセンにて

1. 東京都 ボランティア活動
2. 2005年頃
3. サポート活動をしたかった。
そこでPC・おもちゃ“何でも相談”を始めた
4. 卓球、水泳、登山、ウォーキング、DIY、ヨガ、庭いじり、オーディオ製作、クラシック音楽鑑賞、セーリング
5. ディンギー 50年（今中断）、音楽、オーディオに熱中。ディンギーは広大な海に繰り出せること、オーディオはクラシックで技術と心のやすまり


これから：コロナ禍が去れば、海と山に活動を再開し、遊びたい。
6. 冬（やまが美しいこと、スキーが出来ること）
7. 英国 QUAD 社 静電型スピーカーシステム一式、自作オーディオシステム、Road star BMW Z3
8. アナログ、自然
9. チーズ類、スモークサーモン

10. ジンジャエール 11. ビール、ウイスキー
12. よりオールドなクラシック
13. — 14. —
15. オーディオに触れクラシックを聴く、そして海、山に親しむこと
16. —

片山どんぐりさん

賛助会員

OTO-TOY

1. 埼玉県 ハウス代表
2. —
3. お声をかけていただきました
4. 楽器とおもちゃで遊ぶこと
5. コロナ休み以降
大人、子どもが対等に勝負する、負けても盛り上がる
面白いカードゲームやグッズを沢山もっている（ウフ！）
6. オールシーズン
7. 子どもの頃の足踏みオルガン・着せかえ人形・ティーセット
父の兵役時代の写真
どんぐりさん作
ドングリちゃんたち
8. アナログ・自然
9. お寿司
10. 日本茶
11. ビール
12. 何でも！
13. — 14. — 15. — 16. —



「どんぐりさんちでおとあそび」(鶴嶺公民館)

<https://youtu.be/RfOO4fuSx1g>

『ありがとうサポセン』

オープンより関わってきたサポセン。当時は、さぼちが会員が窓口に入り利用者の皆さんとの絆を深めてきました。市民運営型は、行政とは異なり気軽に利用できる場所となっております。市民活動や福祉のこと等、知識や経験の豊富な方々との会話の中から学び取ることがたくさんありました。利用、相談に来所される方に少しでも「サポセンにきてよかった」と思っていただけの一生涯懸命でした。

その中には学生の利用者も多数いました。合格証書を持参して、大学受験の合格報告に来てくれることもありました。10数年前、ボランティア相談で、将来学校の先生になりたいと夢を語ってくれた人が現在教師として頑張っていることをサポセンの最近の相談から知りました。

窓口、相談時代に「人に寄り添い一緒に考えていこう」という姿勢を身につけさせて頂いたことが現在の活動(ボランティアセンター、民生委員等)に役立っています。益永さん、サポセンスタッフ、会員の皆様に出会えたことは私の宝であると共に感謝しております。

正会員：森 早苗

『サポセンに入って』

サポートセンターに入って早くも3ヶ月、最初は右も左も分からない状態でしたが、皆様のご指導のおかげで慣れてきました。入ってまず思ったこと、それはスタッフの方々、利用者さん、とても温かい人たちで溢れているということです。そして、ここのスタッフは利用者さんとのつながりをとても大事にしている人が多いと感じました。ただ対応をして終わるのではなく、毎回のちょっとした会話を大事にしているのが伝わってきます。そうした姿勢が、スタッフと利用者さんだけでなく利用者さん同士のつながりへと伝染していき、茅ヶ崎全体がさらに良いまちになっていく契機になるのだなと思いました。

私は、大学で社会学を専攻しており、ちがさき市民活動サポートセンターは、フィールドとしても沢山の学びがある場だと感じます。これまでほとんど関わりのなかったような方々にこんなに近くで関わることができ、知らなかったことを知る機会を沢山与えてくれます。まだまだですが、気づきが多い今の新鮮な感覚を、これからも大事にして日々精進していきたいと思えます。



サポセン学生スタッフ：
内野 結月

～こぼれ話～

「こどもファンド」の準備を始めるにあたり、この分野の第一人者早稲田大学卯月盛夫教授を訪問した際にお聞きした独・ミュンヘンで1979年国際児童年を記念して始まった大イベント「ミニ・ミュンヘン」。7～15歳までの子どもだけが運営する「小さな都市」。2年に一度夏休み期間3週間だけ疑似都市が出現する。子ども達自身がやるべきことを考え、意思決定しまちを運営していく。そして終わった後には、現実の社会や都市の在り方について関心を持ち、どうあるべきなのか自ら考えるきっかけになるという。体験を通し、子ども達は「自分にはやれることがある」「社会のために価値のある貢献ができる」という自覚を持っていくという。「こどもファンド」もそのような仕組みにしたいと思いました。



～会員募集～

市民の自主的な活動による豊かな市民社会の発展に寄与するという目的をご理解いただきご入会ください。入会のお申込みは佐野までお願いします。



～会費情報～ 入会金なし

年会費＝正会員：3,000円/賛助会員：2,000円

今後の主な活動 (予定は変わることがあります)

○理事会：毎月1回(原則)

○20周年プロジェクト会議：毎月1～2回

○食から未来へ勉強会：年内に1回

※理事会など、原則対面とオンライン方式併用開催

編集後記 10月1日にやっと緊急事態宣言が解除されました。変異株やエアロゾル感染など心配の種は尽きません。引き続き健康管理、手洗い・消毒、ゼロ密などコロナ感染予防に留意してすごしたいものです。